

2023年度 智学館中等教育学校自己評価表

目指す学校像		人間の尊厳を大切にし、世界で活躍できる人材を育てる				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
<p>新学習指導要領の実施に伴い、生徒一人ひとりの進路実現に向けたより良い選択が可能となった。引き続き新学習指導要領に適切した指導方法や入試対策に向けて研修・研鑽を積んでいきたい。</p> <p>国語・数学・英語の授業は、習熟度別のクラスに2～3分割し、個々の生徒に対して最適なレベルで授業を展開した。習熟度別編成は、学期毎に、定期考査や校外模擬試験データを用いて行った。また、校外模擬試験のデータは、統合・視覚化することで、全教員で共有し、生徒一人ひとりの学力推移を意識した指導を実施した。</p> <p>校舎内全域的な無線LAN(Wi-Fi)環境整備に伴い、校内全域で自由にインターネット接続が可能となっており、各教室でのChromebookを用いた授業展開を円滑に実施することができた。また、感染症不安等の生徒に対しても、各担当教員がリアルタイムで配信を行うなど、個別最適な学習活動を行うことができた。</p>		生徒支援(人間性・学力の向上等)	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で検討し新学習指導要領に適切した指導方法、入試対策を確立させる。 来年度以降、それぞれの年度で生徒たちが充実した学校生活を送れるよう、各種行事等の工夫、検討、見直しを行う。 前期課程の早い段階でやる気と自信を身につけさせ、成功体験につなげる。 生徒一人一人が、成長を実感できるよう、きめ細やかな指導を行う。 探究学習・ICT教育の充実を図り、論理的思考力や国際的指標に基づいた読解力を育成する。 		A	
		教職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人ひとりが自分の仕事におけるスキルを高め、多くのことに挑戦する。 生徒のやる気や潜在能力を引き出させる、工夫や努力に尽力する。 		A	
		生徒指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶がしっかりとできるよう全教職員で取り組む。 全教職員が同じ視点・共通認識を持って、生徒指導を行う。 公共の場でのマナーを守ることの大切さを生徒に理解させる。 		B	
		法人内各学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 常磐大学、常磐短期大学・常磐大学高校との連携を強化し、協力体制を確立する。 		B	
		地域連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 校外で開催される各種行事やイベントに、ボランティアなどとして積極的に参加し、地域との連携を図る。 		B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題	
年次	2年次	基本的生活習慣の涵養	学校や社会のルール、公共のマナー、挨拶の大切さを認識し、行動させる。	A	A	社会における挨拶やマナーの重要性を継続して学ばせる
			適切な時間の管理や情報を記録させ、振り返りをさせる。	A		適切な時間の自己管理が目標達成のために欠かせないことを意識させる
		互いを認め合い協力して挑戦し続ける心の育成	学校行事やクラスの行事において主体的に企画・実行できる力を育成する。	A		具体的に何をどうすれば達成できるのかを考えさせる
			課題解決の為に、互いの意見を尊重させ、自ら考えて行動させる。	A		他者との距離感や違いを認め合う姿勢を持たせる
		主体的学習習慣の確立	主体的な学習習慣・態度を確立させ、知識を深め定着させる。	A		模試や定期試験だけでなく、毎日の積み重ねの重要性を意識させる
			短期・長期の目標を定め、達成感や振り返りを行い学力をつけさせる。	A		振り返りをもとに課題意識を持たせ、自分の成長が感じられるよう導く
		探究心と進路に対する意識の高揚	総合的学習の時間や行事などの活動を通して、興味・関心のある分野の探究心を育成する。	B		自ら興味を持ち、解明のために考えさせる
			学びを通して将来の進路に対する意識や職業観を持たせる。	A		先輩の話を開いたり、面談を通じたりして将来像を意識させる

3年次	基本的な生活・学習習慣の確立	パーソナルレコードを活用し、時間の管理を行い、自己の内面を省みることで生活を充実させる。	B	A	自己実現に向けて主体的かつ自覚的に行動する意識を持たせる
		後期課程への進級に向けて主体的な学習態度を養い、基礎学力の定着と知識の習得に努めさせ、発展的学力に繋げる。	A		積み重ねと到達するまでの過程の大切さを意識させる
	互いを尊重し行動する自主性の育成	互いを認め意見を尊重しながら、リーダーの素養と個々が主体的に考えて行動できる力を養う。	B		一方的な批判的視点ではなく、多方向からの視点で考えさせる
		学校行事において、協調性や信頼関係を重んじる意識を持ち、課題解決に繋げる意識を持たせる。	A		共同から協働へ視点の変化を促す
	学びの中での探究心の育成	興味・関心のある分野や事柄について、主体的に追究し学びを深めさせ地球規模で物事を思考する意識を持たせる。	A		多岐にわたる情報やICTを有効に活用させる
		自己の主張を論理的にまとめプレゼンテーションする力と、他者とコミュニケーションをとり有意義な情報交換を行う積極的な態度を育成する。	A		ディベートなど、継続的に多様性を尊重する場を設ける
	将来の目標を見据えた取組み	進路学習を通じて勤労の大切さや社会の一員としての生き方を学ばせると共に、自己の進路や適性など、具体的な職業観を培う。	A		進路講演等を通して自らの将来について具体的に考えさせる
		国内研修旅行において研修先の地域の生活や自然を理解し、計画を遂行して責任ある行動について考えさせ、人間的成長を図る。	A		自国文化に対する理解を深め、知識、教養を身につけさせる
4年次	基本的な学習習慣の確立	模試の事前指導・事後指導を徹底し、家庭学習を定着させる。	B	B	進路や自己実現と学習を関連付け立体的に意識させ、主体的に学ぶ姿勢を持たせる
		手帳を活用し、規則正しい生活を徹底させる。	A		手帳を活用し自己分析をさせるとともに見通しを立てて生活する習慣を定着させる
	将来像の確立と進路選択	文理選択を見据えた進路指導を充実させる。	A		資料や進路サポートを更に活用して指導する
		講演会への参加や資料の熟読を通じ、進路意識の向上と具体化を図る。	B		進路希望実現の為に必要な情報の収集の仕方を指導し、さらなる進路意識の向上を図る
	人間関係の確立	学校行事やHR等においてコミュニケーション能力の向上を図る。	A		生徒同士で議論する機会を更に増やす
		心身の健康に気を配り、良好な対人関係を構築させる。	A		定期的な声掛け・面談と観察を行う
	社会性の育成	課題解決の為に、互いの意見や価値観を尊重させ、自ら考えて行動させる。	B		事前・事後学習をより計画的に実施する
		生徒会活動や部活動等で活躍する機会を増やし、リーダーシップの育成を図る。	A		生徒の活動意欲を高め、ボランティア・部活動への積極的な参加を促す

5年次	基本的な生活習慣の涵養	自分自身を振り返り、自立心を育成する。	B	B	HRを通して、ふり返りの機会を作る。面談の機会を増やしたり、保護者との連携を密にする。
		手帳を活用し、規則正しい生活を徹底させる。	A		有効な活用法の指導や定期的な確認を行う。
	周囲との協力的態度の育成	学校行事や特別活動を通して、リーダーシップや組織の運営について、実践的な態度を学ぶ。	A		中心的立場としての自覚を持ち、周囲と協力する。リーダーとしての役割を認識させる。
	学習習慣の確立と進路への展望	1日の学習習慣や、長期的な展望に立った学習方法を確立していく。	B		早い段階からより一層進路意識を高め、切磋琢磨できるよう相互に協力していく。手帳の有効活用。
		面談や進路講演会を通して、次年度の進路への意識を高める。	A		大学訪問や進路情報誌等から情報を集め、自ら行動を起こすように促す。HRを利用して、調べる機会を増やす。
社会的存在としての自己の確立	卒業後の進路を踏まえ、社会の一員としての自覚を意識させる。	B	集団の一員としての自分の役割と、自己の目標実現への取組とを区別させる。		
6年次	基本的な生活・学習習慣の確立	手帳を活用し、計画的・継続的な学習を意識させる	C	B	進路意識を高め、自学に取り組むよう促す
		生活習慣の見直し・改善を指導する	B		生活のリズムを確認し、生徒の心身の状態を把握することに努める
	目的意識を持った進路の実現	将来の職業や生徒の希望に沿った進路指導を行う 適宜面談を実施し、フォローアップに努める	B		進学意欲を引き出す工夫と受験指導力の向上
		生徒の志望する大学や学部・学科に応じた適切な受験指導を行う 年次のみならず、各教科との連携を図り生徒の学習支援に努める	A		面談を通じて生徒ひとりひとりに合った受験方式の選択や学習指導を行う
	社会を意識した自己の確立	集団における自らの役割を理解し、リーダーシップと協調性を育成する	A		集団の一員として、自覚と責任感を高める指導の継続
		他者の意見を尊重し、自らの意見を堂々と述べられる態度を養う	A		HRや学教行事を通して、ひとりひとりが考える機会を増やす
		最上級生としての自覚を持たせ、自律した態度を身につけさせる	B		下級生の模範となるよう、上級生としての自覚を促す
自分で考え、率先して行動できる積極性・自発性を伸長する		B	発言や行動に対して、それに伴う責任感を意識させる		

校務分掌	教務	6年間を見通した教育の確立	シラバス・学習指導計画に沿った授業活動を実施する	A	A	教科間連携強化による相乗効果向上を目指す
			完成年度を迎える新学習指導要領に基づく教育活動を実践する	A		後期課程年次間における教育活動円滑化を目指す
		学力向上の追求	4学期制を活かした学習評価を実践する	A		生徒のやる気につながる評価法を模索する
			習熟度別授業、放課後・夏季ゼミ等を活用する	A		学力差に応じた指導法の検討を継続する
		授業力の向上	各学期末に全生徒を対象に授業アンケートを実施する	B		アンケート結果を有効に活用する
			教科別に研究授業を実施する	B		他教科の授業内容に対する意識を向上する
		探究学習の充実	PBL手法を用いた探究学習を実施する	A		プレゼンテーション能力のさらなる充実を目指す
			SDGs、ユネスコスクールの理念を活かした探究学習を実施する	A		探究活動と学外活動との有機的な連携を模索する
		ICT教育の推進	授業内外においてChromebookを活用する	A		活用機会のさらなる増加を目指す
			生成AIの使用を通して望ましい活用法を探る	B		実践を通じて、望ましい活用法を模索する
	進路	6年間を見通したキャリア教育プランの確立	労働体験を通して働くことの尊さと意義を考えさせ、望ましい勤労観を身に付けさせる。	B	A	高校生早期キャリア講座、職業意識形成ガイダンスや職業体験の継続。
			生徒の興味・関心や資質・適性を検討し、生徒の将来を見据えた進路を提案する。	A		「書いて考える進路」「進路サポート」「適性・適職診断」の活用。
		学習活動の支援	定期的に模擬試験を実施し、年次や教科担当にデータを提供して、学習指導を行う。	B		FINE SYSTEMやCompass, k-naviやバンザイシステムの活用。
			ゼミや個別指導で生徒の学力向上に努め、学習ガイダンス等を通して学習意欲の向上を図る。	A		7限ゼミ・夏季ゼミ・冬季ゼミの開講。学習ガイダンス、受験報告会などの開催。
進路情報の提供		各年次の生徒や保護者に向けて、進路に関する情報提供を積極的に行う。	B	本校の進路だより「ForgeAhead」の発行。進路情報誌の収集・配布。		
		各年次に応じた講演会や説明会を開催し、進学に対する意識を啓発していく。	A	進路講演会や進路・学習ガイダンス、文理選択説明会、高3・0学期指導の継続。		
進学希望者への支援		各大学関係者との結びつきを強め、指定校推薦枠の維持・確保に努める。	A	教員向け大学説明会(入試説明会)への参加、指定校枠提供の依頼。		
		総合型選抜・学校推薦型選抜等、多様化する大学入試に対応した受験指導を行う。	A	進学相談会への参加、小論文講座、志望理由書・自己推薦書書き方講座、面接・マナー講座の継続。		

生徒	基本的な生活習慣の確立とマナーや振る舞いの向上	相手に伝わるような挨拶ができる働きかけをしていく	A	A	朝のみならず、廊下でも積極的に声を出す生徒が増えてきた
		集会や式典における自己指導力の向上	A		自動化への取組を継続する
		スマホ・SNSの校内での適切な使用方法の確立	B		特に問題は見られないが、放課後の扱いを検討
		スマホ・SNSについて、外部講師からの助言を通して意識を向上させる	A		次年度も外部機関の講習会を実施する
		スマホ・SNSの適切な使用への自己指導力の向上	B		放課後の扱いや家庭での使用時間について、講習会を通して働きかけをしていく
		公共交通機関での安全かつ適切な振る舞いの浸透	A		交通安全委員会からの危険予測や事故防止の啓発活動を継続していく
	交通安全への理解と適切な行動力の向上	自転車通行路の適切な利用と運転マナーの向上	A		乗車時のヘルメットの着用は定着、普段の自転車の乗り方について啓発活動を推進していく
		交通安全教室を通して、自己を客観視できる視野の育成	A		レーシングチームHELM(本校卒業生)による交通安全教室は好評であった 次年度も交通安全教室を企画
	生徒指導における教員の資質向上	教員の問題解決力の向上	A		コーチングによる問題解決力のさらなる向上を図る
特活	円滑な学校行事の運営	智学館フェスティバルの実施 年次減少に対応した学校行事の運営	B	A	運営マニュアルの作成
	委員会活動における生徒の自主的活動の支援	生徒の主体的取り組みを取り入れた活動の支援 各委員会における対外活動の活発化	A		更なる主体的取り組みの活発化 生徒会役員との連携
	部活動の活性化	部活動やクラブ活動の活動率の引き上げ	A		練習計画書における部活動の把握
	ボランティア活動の支援	地域のボランティア活動への積極参加の支援	B		常磐大学や常磐大学高校、地域との連携とボランティア活動への積極的な参加支援
	生徒会活動の自主的活動の支援	生徒会活動の自主的活動への支援 インターネットツールを活用した生徒会活動の運営	A		Instagramを用いた広報活動の活発化
		生徒総会を中心とした学校組織の仕組み作り	A		生徒総会の活性化を図る
	HRの活動計画の深化	1年間を通じたHR運営方法の確立	B		人間育成・リーダー教育のためのHR計画
		教員間の情報共有と主任、担任、副担任の連携	A		計画・反省を中心とした前年度の見直し

	保健	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保を図る。	学校保健計画に基づき、諸検査・安全点検を実施する。	A	A	諸検査、点検の実施を継続する			
			避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては、地域との連携を図る。	A		教務との連携を密にし、年に2回の実施を継続する			
		生徒の健康課題を把握し、健康教育の充実を図る。	学校保健計画に基づき、健康診断を実施し、担任や保護者と連携して対応する	A		保護者との連携を密にし、健康教育の充実を図る			
			保健だよりの発行や講演会を通じて、生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る。	A		毎月の保健だより発行を継続し、講演会の充実を図る			
			保健室の円滑な運営・管理に努める。	A		保健室登校や利用について個々に対応する			
			様々な感染症について、学校医等の協力を得て、流行の防止に努める。手洗い・うがいの徹底を図り、感染症を防ぐ。	A		保健委員会を十分に活用し、生徒の予防意識を高める			
		心の問題の早期発見・対応に努める。	カウンセリングにおいて、スクールカウンセラーと担任間の連絡調整を支援する。	B		カウンセラーと担任間の円滑な連絡調整を継続する			
			要配慮生徒について、担任、スクールカウンセラーと連携を図る。	B		情報共有を密にし連携を図る			
		心身共に健康な生活を送れるよう食育に関する意識啓発を行う。	食に関して関心を持てる環境づくりに努める。	B		野菜嫌いな生徒への啓発、食品ロスの問題についても考える			
			食育に関する情報の発信と意識の啓発を行う。	A		保健だよりだけでなく保健委員会でも啓発活動を行う			
		教科	国語	基礎的な学力の定着		日々の予習・復習等の学習習慣を身に付けさせる。	B	B	授業内テストを実施し、事前学習を促す。
						習熟度別授業を通して、一人ひとりの学力に応じた適切な学習指導を行う。	A		個々の生徒の学習進度に応じた学習指導の充実。
				語彙力・表現力の向上		作文指導や小論文指導を通して、諸問題に対する独自の見方や考え方を養う。	B		「少年の主張」「平和作文」「青少年読書感想文全国コンクール」等への応募。
						各年次に適した課題設定・添削指導を行うことで、文章表現力を向上させる。	B		小論文講座の開催。「書いて考える進路」の実施。
読解力・論理力・思考力の育成	文書を正確に読み取り、内容や論旨を的確に把握する力を養成する。			A	新聞教育の導入。リテラシー能力の向上。				
	ディスカッションやディベート、プレゼンテーションを通して、批判的思考力や論理的な思考力を養成する。			B	批判的思考力の育成。論理的思考法の修得。				
鋭敏な言語感覚と芸術的感性の錬磨	文学的文章から、登場人物の境遇や心情、人間関係や時代背景などを読み取り、物語の世界をイメージする力を養う。			A	激論会の実施。映像化された文学作品の鑑賞。				
	詩・短歌・俳句に親しみ、鑑賞および創作を通して、言語感覚を磨く。			B	短歌・俳句コンクールへの出品。				

数学	基礎学力の定着	定期的な課題によって、家庭学習を充実させることで学習習慣を身に付けさせる。	A	A	他教科との連携、継続した指導を徹底する。意欲的に学習できるように工夫する。
		定期的な小テスト・単元テストによって学力の定着を確認する。	A		テスト前後の自主的な学習を促す。自学の習慣化を図る。
	個に応じた学習指導の充実	習熟度別授業や放課後ゼミにより個人差に配慮した指導を行う。	B		放課後のゼミや補習授業を、より一層充実させる。問題の精査。
		考える力や表現する力を養う。	A		授業や定期テストで扱う問題の精査。生徒同士で考えさせる機会を充実させる。
	教員の教科指導の向上	教科内で、互いの授業方法について相談や意見交換を密にする。	B		教科会で、共通テストや難関大入試問題などについての意見交換を行う。
		様々な研修に積極的に参加し、その情報や成果を教科内で共有する。	B		研修会や公開授業、教科外の研修などにも積極的に参加する。
社会	6年間を見据えた系統的な指導の確立	ステージごとの到達目標を再検討し、ステージ間の連携を強化する。	B	A	3年次社会と、後期課程における歴史総合と地理総合、各探究の繋がりを考える。
		多様な進路希望に対応できる科目選択のあり方について研究する。	A		昨年度より始まった新課程の科目、今年度より始まった探究科目についての研究を進める。
	実社会とのつながりを意識できる学習法の開発・実践	実社会の諸問題を体験的に学び考えるため、活動的な実践を積み重ねる。	A		探究学習との関連を持たせ、課題発見・解決型のフィールドワークを実施する。
		資料読解の機会を多く設け、社会的諸問題を発見させる。	A		意見や知識を要約し、共有・発表するスキル向上をめざす。
	主体的・対話的な学びを実現する指導法の工夫・改善	全年次が持っているChromebookを用いて、アクティブラーニング型の学びのスタイルや学習課題、発問技法について研究を深める。	B		ICTを用いた授業技法について教科内で研修を行う。
		先人との対話という点を重視し、学習課題に応じた適切な資史料等を選定する。	A		生徒に考えさせたいことや習得させたい力を踏まえ、適切な資史料を選定する。
理科	科学的・論理的思考の育成	「観察」「仮説」「実験」「考察」の一連のプロセスを通じて、実験や観察を行う。	B	A	生徒一人ひとりが仮説を立てたり検証方法を考える機会を増やし、自主的な科学的探究力を育てる。
		実験や観察で得られた結果を基に、レポートや研究論文を作成することで科学的・論理的思考を育む。	A		実験や観察を通じて得られたデータを基に、レポートや論文を作成する機会を増やし、科学的な探究心を深化させる。
	探究力の育成	実験や観察を通じて「発見する」プロセスを重視する授業を展開する。	B		授業後、ICT機器を活用して質問や疑問を言語化して残す機会を増やし、生徒同士のコミュニケーションを促進する。
		生徒が自ら学ぶ意欲を引き出すため、実験観察やICT機器の効果的な活用を促し、個々の興味関心を深める。	A		ICT機器の効果的な活用方法を探究し、探究的学習活動に取り入れることで、学習の質を向上させる。
	理科の言語化	授業中の実験を通して、レポート作成に取り組み、論理的な文章の作成方法や研究論文の書き方を学ぶ。	A		論理的な文章作成方法を体系的に学ぶ機会を増やし、文章で説明する力の向上を図る。
		探究学習の発表においてICT機器を活用し、自らの研究成果を効果的にプレゼンテーションする能力を養う。	B		探究学習の発表機会を設け、プレゼンテーション能力や言語表現力を高める機会を増やす。

英語	基礎的な英語力とコミュニケーション力の育成	4技能のバランスがとれた言語活動を実施する。	A	A	「読む」「話す」の活動を多く取り入れる		
		知識を实践で運用できるよう、場面設定や教材はできるだけ実的なものにする。	B		インターネット等を利用して、実際に使われる英語を素材として使うようにする		
	基本的な学習習慣の確立	定期的に小テストを実施したり、課題を与えたりして、自学自習、家庭学習の習慣を身につけさせる。	A		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう		
		外部資格・検定試験の受験を促し、自身の英語力向上のために目標を持って学習に取り組ませる。	A		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう		
	英語を用いて積極的に行動する態度の育成	幅広い話題について、情報や考えなどを整理して発表したり、話し合ったりする。	A		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする		
		調べ学習をさせたり、補助教材を利用したりして、異文化理解を深める。	B		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする		
	英語を運用する機会の充実	English Dayやその他授業内外の活動を通して英語でコミュニケーションを図る機会を設ける。	A		オンライン英会話学習を通して実践的なコミュニケーションの練習をする		
		国際交流の機会をできるだけ多く設ける。	B		オンライン英会話を通して実践的なコミュニケーションの機会を設ける		
	研修機会の充実	授業担当者がそれぞれの授業について、情報を共有し、指導の工夫や改善の参考にする。	A		他の教員の授業を積極的に見学する		
		外部の研修会等に積極的に参加する。	B		教員一人ひとりが努力する		
	保体	保健学習の充実と知識を活用する学習活動の取り入れ	心身の発達と心の健康について理解させる。		A	A	学んだ内容に強い興味を持たせるために、発表や話し合いの場を設ける。見る、聞く、話す、感じる、考えることでより深い理解につなげる。
			健康と環境、傷害の防止について理解させる。		A		
健康な生活と病気の予防について理解させる。			A				
ブレインストーミング、実習、ICTを活用した学習などを取り入れる。			A				
基礎体力を高め、心身の調和的発達を図る		授業及び体力テスト等への積極的参加の姿勢を育成する。	A	各種目に応じた補強運動を取り入れ、基礎体力を高めていけるよう、時期や活動などの工夫を増やす。			
		体づくり運動や持久走の授業で効果的な体力向上の実践を行う。	A				
運動を豊かに実践することができるようにすることとコミュニケーション能力の育成		運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A	基礎的な技能習得の機会を設けるために、個人で練習課題を考えるワークシートなどの導入を増やす。ICTを活用した授業・視覚的な授業の充実を図る。			
		基礎的な運動技能を習得させる。	B				
		ルールを理解させる。 練習や作戦、課題解決の方法の確認を話し合う機会を設ける。	A B				
決まりを守り、互いに協力し合う態度を養う		規律ある行動をとり、マナーやルールを遵守する。	A	選手を取り巻く環境(対戦相手や観客など)や、精神面(心)を読み解く力をつける為に、体育理論や道徳授業の中で考えさせ、またその時期を検討する。			
		フェアプレー精神を遵守する。	A				

※評価基準

A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない